

埋文さいたま

埼玉県の遺跡と出土品の情報誌

No. 62



埼玉県マスコット
「コバトン」



久喜市 小林八束 1 遺跡 出土土偶 写真:埼玉県教育委員会 撮影:小川忠博氏

特集

よみがえる輝き

— 県内出土の金属製品 —

さいたま発掘情報 (2018年1月~12月)

平成30年度文化財収蔵施設 新収蔵資料

まいぶん探訪 白岡市生涯学習センター

〔こもれびの森〕

監修/発行
企画/編集

埼玉県教育委員会
公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団



発掘調査では、主に土器や石器などの遺物が出土します。その中には、鉄や銅などの金属でつくられた「金属製品」が含まれることもあります。これらの金属製品には、現代の私たちが見ても驚くほど精巧につくられているものがあります。

今回は、こうした金属製品について、県内出土資料の一例をご紹介しますとともに、出土した金属製品が、博物館などに展示されるまでの作業（保存処理）をお見せしたいと思います。

《1》
金属製品の製作・
加工の痕跡
[鍛造と鑄造]

まずは、金属製品が製作・加工された痕跡を遺跡の中に見てみましょう。

やまざきやま

山崎山遺跡（宮代町）

[鍛造]

写真：宮代町教育委員会

山崎山遺跡は、県内で最も古い時期（古墳時代前期：4世紀後半）の鍛冶工房跡が確認された遺跡です。この鍛冶工房跡では、炉で熱した鉄の素材を鍛冶の道具を用いて鍛えて製品にしたと考えられています（鍛造）。



鍛冶工房跡



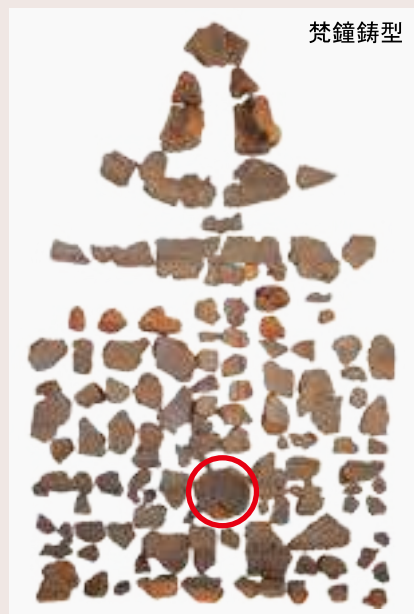
鍛冶工房復元図



鍛冶工房跡から出土した鉄に関する遺物



鍛冶工房跡出土の土器



梵鐘鑄型

かない

金井遺跡（坂戸市）

[鑄造]

写真：埼玉県教育委員会

金井遺跡では、仏具の製作に関するたくさんの遺構や遺物が確認されています。溶かした金属を型に流してつくる鑄造の痕跡です。

写真は、梵鐘（釣鐘）をつくるための中世の鑄型です。長方形をした土壙から多量の焼土と炭化物、鉄くずとともに出土しました。鑄型には、文字や鐘を吊るすための龍の形をした龍頭などが残っています。また写真中央よりやや下にある円形の鑄型は、梵鐘の撞座で、複弁八葉蓮華文と呼ばれる文様が彫り込まれています。

この2つの遺跡以外にも県内では、多くの生産遺跡が調査されています。

《2》
県内出土の
金属製品

鐔の銀象嵌



ぎんぞうがんそうたち
「銀象嵌装大刀」

みかじりばやし
遺跡名：三ヶ尻林遺跡（熊谷市）
時代：古墳時代後期

4号古墳から出土した大刀です。鐔^{つば}や鞘尻などの装具にC字状の文様や渦巻文を刻み、そこに銀の糸を埋め込む、象嵌で表現しています。柄頭は失われていますが、装具の特徴からコブシの形になる頭椎大刀であったと考えられます。

写真：埼玉県教育委員会

くつわ
「轡」

こうざん
遺跡名：光山遺跡群（川越市・日高市）
時代：奈良時代



竪穴住居跡から出土した鉄製の轡です。轡は、馬の口にかませる銜^{はみ}と銜留めの役割を果たす鏡板と手綱へ続く引手からできています。この轡の鏡板は、鉄の棒を8の字状に折り曲げているのが特徴です。

写真：埼玉県教育委員会

はなのき
「花ノ木遺跡住居跡出土遺物」

遺跡名：花ノ木遺跡（和光市）
時代：平安時代



- ① 鎌
- ② 刀子
- ③ 紡錘車
- ④ 鉄鏃
- ⑤ 鍵
- ⑥ 火のし



「火のし」

火災で廃絶した住居跡から、鎌や刀子、紡錘車、鉄鏃、鍵などが出土しています。特に注目されるのは、銅製の火皿に鉄製の柄がつく火のしです。火のしは、現在のアイロンの役割をはたした道具で、皿に炭火を入れて暖め、平らな底の部分で衣類を平らに伸ばしたものです。

県指定文化財 考古資料

写真：埼玉県教育委員会



こ が た ほ う と う こ が た み か い ふ れ ん げ 「小型宝塔・小型未開敷蓮華」

ひろきかみじゆく
遺跡名：広木上宿遺跡（美里町）

時 代：平安時代末期～室町時代

金・銀・金銅・銅・鉄の5つの材質で製作された小型宝塔と小型未開敷蓮華で、漆箱に入れられた状態で出土しました。小型宝塔は、仏舎利容器として、小型未開敷蓮華は、つぼみをつけた蓮華を表現したものとして、当時の金工技術を駆使した精巧な作りとなっています。

県指定文化財 考古資料

写真：埼玉県教育委員会



せいどうせい こうろ 「青銅製香炉」

だいこうじうら
遺跡名：大光寺裏遺跡（上里町）

時 代：鎌倉時代～南北朝時代

3つの足がつく鼎形と呼ばれる青銅製の香炉です。足には獣面が表現され、胴部には3段の雷文が巡っています。14世紀前半代のものと考えられています。

県指定文化財 考古資料

写真：埼玉県教育委員会



せいどうせい ご こしよ 「青銅製五鈷杵」

つか こし
遺跡名：塚の越遺跡（坂戸市）

時 代：鎌倉時代～室町時代

火葬墓から出土した小型の青銅製五鈷杵です。五鈷杵は密教で使用した法具です。周囲の4本は断面が菱形で、先端部を尖らさず中心部に付いています。蓮弁は明瞭ではありませんが、6弁と考えられ、中央部の膨らみは二条線になっています。

写真：埼玉県教育委員会

《3》保存処理

こうきん
口琴
とは？

口にくわえて演奏する楽器です。金属等のできた薄板状の部分を震わせ、かすかな音を口腔内で共鳴させて大きな音を奏でます。



長い間土に埋まっていた金属製品は、劣化し脆くなっているものがほとんどです。出土した金属製品は、そのままにしておくと、多くの場合、劣化が進みます。そうした状況を避けるため、処理を行い、資料を安定した状態にします。それが、保存処理です。保存処理の方法は金属の材質によってさまざまですが、材質にあった方法を選択し行っていきます。

ここでは、羽生市屋敷裏遺跡から出土した「鉄製口琴」を例に、保存処理の一例を紹介します。

X線写真



Before



出土したままではサビなどの腐食により、ただの鉄の塊にしか見えません。

After



クリーニング後、塩化物を取り除く「脱塩」や合成樹脂で補強し、一連の作業は完了します。



クリーニング作業

X線写真で写しだされた口琴本来の姿を参考に、工具を用いて余分なサビや土を落としていきます。

ポイント!!
将来的に優れた技術が開発された際に、再処理ができるように処理を行います。

こうした作業を行うことで、博物館などでの展示が可能になります。

このように古代から人々は、金属を利用し、いろいろな製品をつくってきたことがわかります。金属製品は、その利便性や耐久性、そして何より希少性から、人々に重宝されてきました。それは現代でも同じでしょう。人間は金属に出会い、その加工技術を工夫することで、より豊かな生活を手に入れました。一方で、武器の使用により争いを増大させたのも事実です。金属の輝きは、今も昔も人を引き付ける魅力があるようです。そして、出土資料としての金属製品は、保存処理技術により、歴史を知るための貴重な資料として、その輝きを取り戻します。

埼玉県を代表する貝塚

① 真福寺貝塚 (さいたま市)

遺跡は大宮台地の岩槻支台にある、縄文時代後期から晩期にかけての貝塚を伴う集落遺跡です。史跡整備に向けて、平成28年度から継続した調査を実施しています。

今年度は所謂環状盛土遺構に相当する高まり部分と、高まり内側にある窪地部分の調査を実施しました。高まりには、後期前葉から後葉にかけてのヤマトシジミを主体とする貝層が堆積し、貝層下からは住居に関連する柱穴等を複数確認しました。

また窪地部分からは、晩期中葉の遺物を多量に伴う黒色土の堆積を確認しました。来年度は西側に広がる泥炭層地点周辺の調査を実施する予定です。

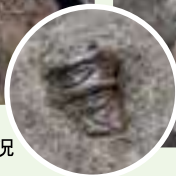
調査機関・文：さいたま市教育委員会



空から見た真福寺貝塚



貝層検出状況



土偶出土状況



窪地内土器集積状況



窪地内調査風景

縄文時代後期の木組遺構

② 小林八束1遺跡 (久喜市)

遺跡は久喜市の南西部に位置し、大宮台地と加須低地の接する地点に立地しています。東西方向に延びる調査区は、東側の台地部（標高約10m）と西側の谷（同約5m）で、高低差が5mにもなります。

縄文時代後期の谷は幅約10～15mで、南から北に向かって低くなっています。谷からは木組遺構3基、木道状の遺構2基が見つかりました。谷の堆積土中には多量の有機物（木材や堅果類等）が含まれ、丸木弓や赤彩された耳飾、石製の垂飾も見つかりました。

調査機関・文：(公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団



大型の木組遺構 (第3号木組遺構)



木組遺構の調査風景



板敷きを伴う木組遺構 (第2号木組遺構)



縄文時代の谷



弥生時代中期の集落

③ 滝宮遺跡 (深谷市)

遺跡は、深谷市上野台地内の櫛引池縁辺部にあり、周辺には湧水による池が複数あります。調査では、縄文時代前期、弥生時代中期の遺構、遺物、古代の布目瓦が見つかりました。弥生時代の竪穴住居跡内からは長野県北の栗林式の影響を受けた弥生時代中末頃の土器が一括で出土しました。見床面近くで炭化物が多数認められるも、可能性のある住居もあります。遺跡の周辺でも同じ頃の土器が見つかり、集落が点在していることが明らかになりました。



空から見た滝宮遺跡



第1号竪穴住居跡 遺物出土状況

発掘情報

月～12月



見つかった3軒の住居跡の中には、
のものもあることから、火事で焼けた
の西側300mにある正智深谷高校周
り、今回の調査で、台地の縁辺部に
なりました。

調査機関・文：深谷市教育委員会



第1号竪穴住居跡



調査風景

弥生時代後期の大規模集落

おおにし

④ 大西遺跡 (東松山市)

遺跡は越辺川を見下ろす高坂台地の南縁に位置し、過去の調査で、弥生～平安時代までの集落跡と中世の溝跡等の遺構を検出しています。

今回の調査箇所は遺跡南西端の台地縁辺部に位置し、弥生～奈良時代にかけての住居跡、計15軒を調査しました。第4号住居は9.6m×7.3mもある大型住居で、出土土器から弥生時代後期中頃に機能したと推定されます。また焼土・炭化物の検出状況や土の埋没状況から、住居廃絶の際に、上屋を焼き払い、埋め戻した経過が見て取れ、同時期の集落展開と廃絶の一端を知りうる成果を得ました。

調査機関・文：東松山市教育委員会



遺跡と越辺川



調査区全景



調査風景

古墳時代前期の方形周溝墓

わかみや

⑤ 若宮Ⅰ遺跡 (桶川市)

遺跡は、荒川左岸に広がる川田谷古墳群の中の柏原支群にあります。発掘調査は、旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場跡地内をA～Eの5つの地点に分けて行い、主な遺構として、古墳時代前期の方形周溝墓が6基、住居跡が5軒見つかりました。さらに、これまで未確認であった古墳も3基見つかりました。

方形周溝墓からは、たくさんの供献土器が出土しました。中には底部に焼成前穿孔が施された土器がまとまって出土した方形周溝墓もあります。また、底部穿孔された土器が出土する住居跡もあります。川田谷古墳群成立前の様相を知るうえで、貴重な資料となりました。

調査機関・文：桶川市教育委員会



空から見た若宮Ⅰ遺跡



A調査区全景



住居跡の調査風景



方形周溝墓の遺物出土状況

古墳時代の集落と古代の溝

⑥ 稲荷山・郷戸遺跡 (朝霞市)

遺跡は朝霞市根岸台にあり、越戸川を東に望み、南側及び西側の一部を除き開析谷に囲まれた標高約9～28mの武蔵野台地縁辺部に立地します。

弥生時代後期の環濠集落として知られる当遺跡ですが、今回は環濠外側の隣接地での調査となったため弥生時代後期の住居跡は見られず、後続の古墳時代前期の住居跡17軒と掘立柱建物跡1棟が発見されました。また、先行の調査で平安時代の掘立柱建物跡と溝跡が規則的な配置で見つかりましたが、その溝跡とほぼ同規模・同形状の溝跡が1条発見されました。溝によって区画された範囲に掘立柱建物が配置される施設が存在が考えられ、役所跡等の公的な場所の可能性が想定されます。

調査機関・文：朝霞市教育委員会



住居跡完掘
全景



空から見た稲荷山・郷戸遺跡(合成写真)



第1号溝完掘



調査風景



住居跡遺物出土状況

国内最大級の埋蔵銭発見！

⑧ 新井堀の内遺跡 (蓮田市)

遺跡からは、常滑焼の大甕に納められた埋蔵銭が見つかりました。口縁には緑泥片岩製の石蓋が置かれていました。蓋を開けると、甕の中には銭貨がびっしりと入っていました。確認できた銭貨の中で多かったのは、「永楽通宝」(初鑄年1408年)でした。甕の縁には、260貫と読める木簡がありました。それが納められた銭貨の量とすれば、26万枚となり、単体の甕から出土した銭貨の量としては、国内最大級の発見です。

調査機関・文：
(公財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



甕の縁で発見された木簡



緑泥片岩製の石蓋と常滑焼の大甕



大甕に納められ出土した埋蔵銭

戦国時代の館の守り

⑨ 高坂館跡 (東松山市)

遺跡は高坂台地の北東縁に位置し、北・形の急崖、西・南を堀と土塁で囲み主郭をます。13世紀初頭に武士の館として造営さの動乱の中で、より強固な堀と土塁を整備過去の調査から推定されます。

今回は西の守りを担う堀の一部を調査し、土塁が残存しています。堀は関東ローム層・粘土層を掘りぬいて礫層まで達し、土塁上から堀底まで約8mの高低差を有する極めて堅牢な守りです。堀西側の斜面に、堀を改修する際の足場(犬走り)があることから、有事に備えて堀を管理した様子をうかがい知ることができました。

調査機関・文：東松山市教育委員会



犬走り(点線部分)

古代の集落を発掘

⑦ 鳥ノ上遺跡・小山ノ上遺跡・上双木遺跡（狹山市）

遺跡は狹山市柏原にあり、入間川左岸の河岸段丘の最も高いところに立地しています。遺跡のすぐ近くには鎌倉街道上道が通っています。

遺跡は奈良平安時代の集落遺跡で、出土品には須恵器^{すえき}や土師器^{はじき}、その他にも完形品に近い須恵器^{すえき}や鉄鏃^{てつしやく}、黒色（内黒）土器^{うちぐろ}が出土しています。集落の時期は出土している土器の器形等から8世紀前半から9世紀後半と考えられます。

調査面積が広いため、ひとつの集落が丸ごと発掘できる可能性が高く、調査終了後は集落の変遷や集落における建物の配置など様々なことが判明すると考えられます。

調査機関・文：狹山市教育委員会



遺物出土状況



内黒土器



発掘調査風景



空から見た
鳥ノ上遺跡・
小山ノ上遺跡・
上双木遺跡
(合成写真)

東を自然地
防御してい
れ、戦国期
した経過が

主郭側には



高坂館跡と都幾川



調査風景



堀と土塁

よみがえる宿場のくらし

⑩ 栗橋宿跡第9地点（久喜市）

日光道中7番目の宿場町、栗橋宿跡の調査は、平成24年度から継続して実施されてきました。今年度は、街道から東へ延びる脇往還（道路跡）を含む一帯を調査しています。第一面（幕末～明治時代）では、東西に細長い区画に、樽地業や筏地業等の基礎をもつ蔵建物跡、大量の羽口や鉄滓が出土した鍛冶跡が検出されました。第二面（江戸時代後期）では、建材や漆器、陶磁器などを投棄した土壌群、井戸や水溜などの水利施設の一部などが検出されています。

調査機関・文：
（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団



第一面 全景



第二面 廃棄物投棄土坑



第二面 調査風景



第一面 樽地業の建物基礎

平成30年度

文化財収蔵施設 新収蔵資料

埼玉県文化財収蔵施設には、県内各地の発掘調査で出土した資料が40万点以上収蔵されています。発掘調査で発見された資料は、報告書刊行が終了すると文化財収蔵施設に収蔵され、学校教育、生涯学習、博物館等、様々な場での活用が図られています。



写真：埼玉県教育委員会

くりはしせきしょ ばんしやしき

栗橋関所番士屋敷跡

(久喜市)

写真は、栗橋関所の番士を勤めた加藤家屋敷跡から出土した古拳銃です。古拳銃は、盛土東側に設定したトレンチから陶磁器類とともに出土しました。一緒に出土した陶磁器の年代は、19世紀中ごろのものですが、現時点で、古拳銃の産地や型式、年代について詳細なことはわかっていません。

事業団報告書第436集
『栗橋関所番士屋敷跡』



古拳銃



古拳銃のX線画像

ながたけ

長竹遺跡

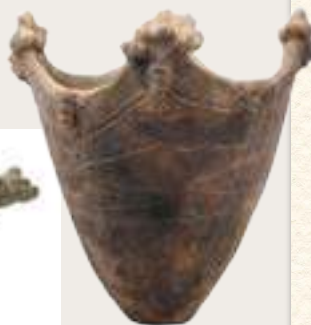
(加須市)

写真は、縄文時代後晩期にかけて形成された環状盛土遺構の南側盛土と北側盛土から出土した資料です。土器をはじめ、土偶などの土製品や石器、骨製品などが大量に出土しました。今回報告され、収蔵された資料だけでも、約1万点の資料があります。長竹遺跡は、現在も整理作業が継続されています。

事業団報告書第440集『長竹遺跡』Ⅱ
事業団報告書第441集『長竹遺跡』Ⅲ



南盛土出土の土偶



南盛土出土の土器



北盛土出土の土器



北盛土出土の骨製品

おばやしはっそく

小林八束 1 遺跡

(久喜市)

写真は、縄文時代晩期の祭祀遺物集中地点から出土した土偶たちです。大型で中空のミズク土偶や、中実で小型のミズク土偶、遮光器土偶など、バラエティーに富んだ資料が今回回収されました。祭祀遺物集中地点からは、写真の土偶の他、ミニチュア土器や石器なども出土しています。

事業団報告書第 442 集
『小林八束 1 遺跡』Ⅱ



小林八束 1 遺跡出土の土偶

おおきど

大木戸遺跡

(さいたま市)

写真は、遺跡から出土した木製耳栓（写真左）と飾弓（写真右）の一部です。耳栓は、鼓形で凹面状の削りも見られ、大変丁寧なつくりになっています。顔料を使い鮮明な赤色に仕上げられています。分析の結果、赤色顔料には「水銀朱」が用いられたと考えられています。飾弓は、木製の芯部に糸状の紐を巻き多彩な装飾を施しています。また赤漆と黒漆を用いて色彩による装飾も一部に見られます。これらの弓は、祭祀に用いられたものではないかと考えられています。

事業団報告書第 444 集『大木戸遺跡』Ⅲ
事業団報告書第 445 集『大木戸遺跡』Ⅳ



木製耳栓



装飾の一部



飾弓

まいぶん探訪

白岡市生涯学習センター こもれびの森（歴史資料展示室）

白岡市生涯学習センター〔こもれびの森〕は、歴史・伝統文化継承の拠点である資料館に図書館、生涯学習機能が融合した複合施設として、平成30年10月に開館しました。歴史資料展示室は、センター1階の開放的な空間に位置しており、白岡市の古代から現代までを学べる通史的な展示となっています。図書館とも連携し、「調べ学習」にも対応しています。



展示室のようす



歴史資料展示室

取材時は、市内小久喜のささら獅子舞が出迎えてくれました。



「未来を創造する展示」

未来の白岡市を子どもたちが描いています。



見学風景と調べ学習のスペース



旧石器時代・縄文時代の
展示コーナー

歴史展示室ハンズオン・デイとして、毎月第3土曜日に定例展示解説と子供向けの体験学習会を開催しています。詳細は、白岡市生涯学習センターへご確認ください。

白岡市生涯学習センター〔こもれびの森〕のご案内

- 住 所 〒349-0296 白岡市千駄野 432 番地（白岡市役所横）
- 開館時間 平日・土曜 午前9時から午後7時まで 日曜・祝日 午前9時から午後5時まで
- 休 館 日 月曜日（祝日の場合はその直後の祝日ではない日）・年末年始（12月29日から1月3日まで）
- 入 館 料 無料
- 交通案内 JR 宇都宮線「白岡駅」東口から徒歩約15分（駐車場台数125台）
- 問い合わせ 白岡市生涯学習センター〔こもれびの森〕
- 電 話 0480-92-1894

